

夕暮れのマッシュュー・ストリート。
リヴァプールの玄関。ライムスト
リート駅から15分ほど歩いたと
ころにある200mほどの路地だ。

杉崎行春 文と撮影

Text & photographs by Yukiyuki Sugiyama
森川 悠 大原一晃 写真撮影
Coll. by Osamu Morioka, Naoki Onishi

マージービートという言葉が地球を駆け
めぐった'60年代。リヴァプールは世界
の若者のあいだでは一種の記号性をもつ
た都市名だった。40年たったいま、元ビ
ートルズ少年の4人が世界を変えたビ
ートルレボリューションの震源地を歩いた。

行きたかったリヴァプール STRAWBERRY FIELDS を探して



伝説のパブ、「グレイブス」。この店で撮影された'60年代のビートルズの写真を見入る森川氏。彼らと同じ場所に座って記念写真を撮るため、世界からビートルズファンがやってくるという。



「4匹の名ミが世界にシヨックを与えた」という有名なマッシュ・ストリート上のビートルズ記念碑。この裏通りに「エリナー・リッケン」の像もある。



マッシュ・ストREETの「キャバン・クラブ」は連日、夕方からビートルズのコピーバンドがライブを行なっている。



穴窟のような「キャバン・クラブ」でわがリヴァプール巡礼団の記念撮影。店内は旧「ザ・キャバン」をそっくり模しているという。

●「ブルマ」は夕方のリヴァプールのダウンタウンを遊んでゆく。ひっそりと並んだレンガ造りの建物の向こうにイギリス第二の港町が見えてきた。

大家 ついに来ちゃいましたね。杉崎 連中はこんなどころから飛び出して来たんだ。でもこちやこちやした町だな。

森川 そう、リヴァプールなんてロクなところじゃなかった。アイルランドから移民が流れ込んで住み着いた労働者の町。ビートルズはその子孫から出た。

大原 おれ、小学生のとき「シー・ラブズ・ユー」でがーんときて洋楽聴くようになったんだ。リヴァプールが脳に染みこんじやって。

森川 ほくなんか「ミート・ザ・ビートルズ」からだもん。キャビトル版のデビューアルバム。高校生のときライオン歯磨きたくさん買って66年の武道館ライブ行っちゃった。

一同 すこい。

大家 あれはライオン歯磨き買って応募するんですよ。

森川 しばらくわが家ではライオンの歯磨きしかなかった(笑)。

●ホテルにチェックインしてから歩いてマッシュ・ストリートへ。路地に「BIRTHPLACE OF THE BEATLES」の横断幕が揺れ

ていた。

大家 ここですかあ。

森川 ワイルドなロッキングロールバンドだったビートルズがこのマッシュ・ストREETの「ザ・キャバン」でブレイクした。

大原 ビートルズが「ザ・キャバン」に出演したのは60年ですよね。まだメンバーにビート・ベストやスチュワート・サトクリフがいた頃。

森川 そう、このふたりはバンドを離れたんだけど、写真を見ると両方ともイイ男なんだよね。

大原 モテたから音楽なんかしなくなっちゃったんだ(笑)。

大原 あ、「ザ・キャバン」がある。ここがプロデューサーのフライン・エプスタインと出会ったところだ。

森川 これは再現した店で本物は73年まで隣にあった。

杉崎 地下3階くらいある。地下室というより防空壕だね。それにしても細長いライブハウスだ。壁のレンガのいくつかは本物の「ザ・キャバン」のものが使われているんだって。

森川 ブライアン・エプスタインはビートルズの人気を聞きつけてここに目に来たらしい、彼が荒削りなロッキングロールバンドだったビートルズに襟なしスーツを着せてお洒落にさせた。

杉崎 あのGSルックだね。

大原 小学校のときテレビでビートルズを見て、イギリスのGS(グループ・サウンズ)と思った。その後GSがビートルズのバクリだったことに気がついたんだ(笑)。

●「ザ・キャバン」でビートルズのコピーバンドの演奏を楽しんだあと、向かい側の伝説のパブ「グレイブス」へ。

森川 当時、「ザ・キャバン」は酒を出さなかったんでビートルズの連中はよくこの店に来て乱痴気騒ぎをしたらしい。

杉崎 ビートルズ独得の「エレキギター」っていう音が耳に残ったままこの店に入ると60年代に引き戻される。

大原 リッケンバッカーの音ね。

森川 うん、リッケンの音は安っぽいの。ジョンはアメリカ船の船乗りからリッケンのギターを譲ってもらったらしいね。

杉崎 港町らしい話だ。

大原 ポールもリッケンの左利き用ベースを持っていましたよね。

大原 ポールのはリッケンバッカー14001ね。日本でもリッケンって人気ありますよね。

森川 そう、森高千里や椎名林檎も使ってる。でも最新作じゃなくなって古いタイプばかり売れるらしい(笑)。



閑静な森にたたずむストロベリー・フィールズの入り口。日本語も含めておびただしいサインが書き込まれていた。ここは児童養護施設の使われていない裏門だ。

●翌日、ビートルズの原風景を探しにポールやジョンが育った町を訪ねた。まずはスミスダウ
ン・ロードとニューカッスル・
ロードが交差するロウタリーに
立つ。そこから500m程のび
るアベニール。そう、世界中の
ビートルズ・ファンが知ってい
るベニー・レインだ。

大原 うわ、「ベニー・レイン」
に出てくるパーバッシュアップだ。
大塚 消防署もあるはずだ。
杉崎 みんな歌のとおり、こり
や究極のご当地ソングだ。
森川 小学校に通っていたジヨ
ンが町の風景を詞にしたんだ。
確かベニー・レインの通りは銘
板があったんだけど、何度も盗
まれちゃって今は壁に直接ペン
キで書いてあるはず(笑)。
大塚 バスに乗ってベニーで
行けるくらいの長さの通り。と
いう意味なんですよな。
大塚 幹線道路を結ぶバイパス
みたいな通り、まったく普通の
住宅街の道だ。
杉崎 途中で線路を越えている、
列車の写真も撮れるぞ。
大塚 アルバム「マジカル・ミ
ステリー・ツアー」では「スト
ロベリー・フィールズ・フォー
レイン」の次の曲が「ベニー・
レイン」だった。

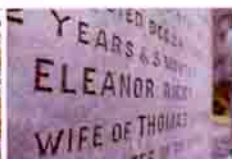
杉崎 むかし、原宿にこの名前
の店があったっけ。
大塚 ベニーレインでパーボ
ンを。吉田拓郎だ。
●そして今回の旅の最終目的地
メンティフプスにあるジョンの
子供の頃の遊び場所、救世軍の
児童養護施設だったストロベ
リー・フィールズだ。閑静な森の
坂道をのぼっていくとイチゴ色

に塗られた鉄の門が挟っていた。
森川 この赤い門扉、数年前に
盗まれたらしいんですよ。なん
でもそのあと鉄くす屋から発見
されたっていう話。僕が犯人だ
つたら家に隠す(笑)。
大塚 ちよっとこの前でウクレ
レ弾いちやおうかな、でも「ス
トロベリー・フィールズ・フォー
レイン」ってすごく難しいんだ。
杉崎 日本だったら観光名所にな
っちゃうと思うけど、ひっそ
りと落ち葉に埋もれているとこ
ろがイギリスだ。
大塚 曲が入ってる「マジカル・
ミステリー・ツアー」って、ア
メリカ編集版で唯一イギリス本
国で認知された名アルバム。映
画もこけたけど好きだ。
森川 この頃からジョージの存
在感が出てきた。
杉崎 でも幼児体験をフットコロ
の深い曲にするジョンのセンス
はすごい。
森川 「マザー」なんか戦争未
亡人になった母親が再婚したあ
と、実の父親が現われて家族が
崩壊していくところを見たジ
ョンの叫びだよ。
大塚 結局ジョンの深さとポー
ルの才能がビートルズなんだ。
大塚 そう、だって女の子に聞
けなかったもん。ビートルズの
誰が好きかって、「リンゴ」って

いわれたらどうしよう(笑)。
杉崎 でもレノン&マッカート
ニーってあまりにメジャーで。
森川 で、最後に才能を見せた
ジョージに惹かれちゃうんだ。
●ふたたび中心街に戻って夕日
のマーシー川にたたずむ。
杉崎 もしビートルズがいなか
つたらどうなっただろう？
森川 世界の若者はもっとコン
サバで、今日のような時代がく
るのも遅れたと思う。自分も、
今の自分よりグサイヒトになっ
ていただろうな。
大塚 ほくも音楽聴いたりギタ
ー弾いたりしてなかったと思う。
リヴァプールなんて地名もたぶ
ん知らなかった。
大塚 だいたいほくらここに
ないですよ(笑)。



おのぼりさん丸出しの巡
礼団。右から大塚・大原・
森川の各氏。彼らがスト
ロベリー・フィールズの
門前でウクレレを演奏す
る快挙(愚挙?)はライブ
HPで。



1956年6月15日、このセント・ピーターズ教会のお祭りで出演していたバンド、「クオーリメン」のジョンとポールが初めて出会った。墓日には'80年代に見発されたエリナー・リグビーの墓碑銘も。これが曲中の人物かどうかはいまも謎だ。



ベニー・レインに立つたとなんかアタマのなかに曲が囿り出す困ったところ。通り末のロータリーには床屋さんや銀行や消防もそのまま残っている。

マーシー・ビートの語源となったリヴァプールを流れるマーシー川河口港にはタリンからのフェリーや運船が行き交う。この上流に工業都市マンチェスターがある。



波止場沿いのアルバート・ドッグにはビートルズの歴史を展示する博物館「ビートルズ・ストーリー」があり、この前からビートルズゆかりの地をめぐる「マジカル・ミステリー・ツアー」のバスが発車する。

リヴァプールでのビートルズ・グッズはマッシュウ・ストリート「ビートルズ・ショップ」か、博物館「ビートルズ・ストーリー」のミュージアムショップで。



【ホワイト・アルバム】 杉崎行恭●のりものフォトライター

フォークソング少年だった高校時代、ビートルズはバックグラウンドとして聴いていたが、大学時代に写真館のせがれに借りた「ホワイト・アルバム」でビートルズの軍門に。不思議なかけ声とともに始まる「ホワイト・マイ・ギター・ジェントリー・ウィーブス」でギターのロングブレイにハマって以後、ニール・ヤングやオールマンにだれこみ一時難境になるほど。それでもスキー合宿のジュークボックスで、片思いの女の子が「オブ・ラ・ディ、オブ・ラダ」で踊っていたときの可愛らしさが忘れられず。こった煮のようなこのアルバムはほくらの青春そのもの。

【オールティーズ】 大原一寛●電脳技術者

小学生の時、知人にもらって脳味噌が一発喧らったのがこのアルバム。これと「アビー・ロード」の2枚しか持ってなかつたからすり切れるほど聴いた。とにかくロックのもつ「暗さ、重さ、明るさ、軽さ」が全部はいていた。それからロック一筋の70年代にビートルズなんか全く聴かなかつたけどCD化されるようになっていける世界観でビートルズを聴けるようになった。大人になって、僕を大人してくれた最初の階段が「オールティーズ」1曲目の「シー・ラブズ・ユー」だったなとわかつた。リヴァプールに行ってリッケンバッカーが欲しくなつた。どうしよう。

【ア・ハード・デイズ・ナイト】 森川修●リッケン・コレクター

ラジオの洋楽ヒットバラード少年だった中学時代、ラジオからまさに飛び出した「ア・ハード・デイズ・ナイト」、初めて買ったのがドーナツ盤の「抱き締めたい/こいつ」。でも初購入のアルバムである日本版「ア・ハード・デイズ・ナイト」(+これ)でジョンが弾いているジェットグロウのリッケンバッカー325のある意味「安っぽい」チャカチャカした音と、ジョージの360/12の独特な12弦サウンドに夢中。1曲目「ア・ハード・デイズ・ナイト」の初めの「ジャン」の鳥肌、B面5曲目の「ユー・キャン・トゥ・ザット」の渋すぎるエンディング…。いいですよな。

↑リッケン・コレクター 森川さん所有の1966年製330R。ちなみに、このギターの作られたというところ、森川さんは武蔵野で日本公演を見ていたことになる。85年、アメリカ、ポートランドで約5万円で購入。撮影/大原一寛



【アビー・ロード】 大家正治●通行人

中学時代に初めて買った輸入盤LPがこれ。ビニール袋を開封すると、中から憧れのロンドン匂の匂いが…。A面最後の「アイ・ウォント・ユー」のヘビーなりフレインを聴き終わり、B面にすると、一転、生ギターの明るいイントロで「ヒア・カムズ、ザ・サン」が…。このA面とB面をひっくり返すときのドキドキ感って、CDでは味わえなくなりましたね。3年前に初めてロンドンに行ったときに、何はさておき、と、このアビー・ロードの横断歩道を歩く姿を写真に撮ってもらいました。偶然、右後ろにワーゲンがジャックと同等に弾まっていたって感激ひとしおでした。

